事故分析と事故防止の直結

県警察本部
交通企画課長　菅　井　憲　郎

大学時代に統計学の講座をとったのが統計とのつき合いの始まりであった。私は，大学では経済学を専攻しており統計学のほか線形計画などと言う知る人ぞ知る数学も一応は学んだ。今から考えれば本当に基礎的なものであったが，この時に学んだものが現在の仕事の基本において役立っている。

さらにもう一度，統計の基礎を学ぶ機会があった。それは，警察庁での教養としてコンピューターについての研修を受け，コンピューターの動かし方を学んだ。

現在，交通事故分析という業務を担当してみると，私の受けてきた統計に関する教養が実は基礎の基礎にしかすぎないことを知った。

統計は，それが単に数字のら列である限りにおいては何の意味のないものである。従って本当の統計，分析とは，数字のら列や固りに意味を持たせることであり，また，意味のある数字を出すことである。交通事故分析においては，年間1万件以上の交通事故について120項目にのぼるチェックをしてデータ化している。これらのデータを縦横に分析して交通事故防止対策に反映させなければならないのであるが，最近でもガード・レール等交通安全施設の設置，大量動員による取締りの実施，交通規制の実施等に際して貢献してきた。今後は，より一層の研究を重ね，交通事故分析を〝活きている分析〟にしていかなければならない。

交通事故分析に期待するものが三つある。

その一つは，事故防止対策の効果測定である。

その二つは，交通事故の発生予告である。

そして，その三つは，事故防止対策の選択決定である。

すなわち，交通事故防止対策には，取締り，安全教育，広報，交通規制，運転者管理，道路構造の改良，自動車構造の改良等数多くの施策がある。これらの施策によりどのように事故を防止することができるのか。それぞれの対策の実施方法，内容，期間によりその事故防止効果を測定することができればと思うのである。現在は取締りを強力に実施すれば事故は減少するのであろうことは知っていても，どれだけ取締りすればどれだけ減少するのかは予測できない。広報でも規制でも同様に，対策とその効果の詳細な相関関係は把握できていないのである。

第二の期待は，交通事故の発生予告である。今までに発生した事故のデータをもとに，道路，時間，原因などごとに翌日の事故の発生がシュミレイションであらかじめ知ることができれば，マスコミを通じて毎日「明日の事故予報」ができるのではないかと思うのである。そうなれば，天気予報を聞いて外出するときに，雨具を用意するように，事故予報を聞いて外出するときに歩行者や車に気をつけるようになり，事故防止に効果があるのではないだろうか。天気予報と異なり交通事故は，予報より少なくなる分には多少はずれたとしても文句を言う者もいないと思うのであるがどうであろうか。

第三は，事故防止対策の選択，決定であるが，これは最も有効であり，かつ，困難なものである。この期待が適えられるためには，事故防止対策の効果に関するデータや事故の発生予告に関するデータも正確にコンピューターに入れておかなければならない。そのうえに，警察官の数，予算等に関するデータも必要であろうからこれは期待というよりもむしろ〝夢〟である。どのような対策をどのように組み合わせればどれだけの事故が減少できるのか予測できれば，限られた人員と予算で最も効果的に事故を防止することができるのである。この最も実現困難な期待＝夢が，実は，現在最も必要としていることなのである。

私は，警察職員に対して「汝,豚になることなかれ！」と言っている。警察で扱う交通事故の内に，将来の事故防止対策が潜んでいる。それを外に出し明らかにするのが事故分析でなくてはならない。交通事故の一件一件は，交通事故防止にとって貴重な教材である。真珠のようなものである。だから，その価値を知らなくてはならない。私達分析業務に従事する者にとって最も大事なことは，分析を活かすことではあるが，それと同時に，分析の題材となる〝現実〟を正確に認識することであると思うのである。

座談会

「昭和50年国勢調査」を省りみて　その1

去る11月22日，水戸市「水府荘」において，「昭和50年国勢調査」の反省座談会が開催されました。

あいにくの雨の中，県内5市町村から各1名ずつ5名の調査員の方々，県統計課からは統計課長はじめ職員が出席し，盛んに意見が交換されました。

出　席　者

調査員	日立市	小島文夫
	大子町	川島美雄
	神栖町	大槻俊雄
	茎崎村	飯泉　努
	総和町	中野美智子
県統計課	統計課長	野口　貢
	課長補佐	猿田行雄
	人口学事統計係長	木口光男
	主事	川上忠行
	主事	秋山桂一

◇始めに

野口課長

10月1日に実施された国勢調査へのご協力を感謝したい。今月（11月）6日，すべての審査を終了し，総理府統計局に提出した。近県に比べ早い仕上りであったのも皆様のおかげであり，感謝している。

本日は，国勢調査を実施した中で感じたご意見，困ったこと，嬉しかったことなどについてお話をうかがい，次回の国勢調査はもとより，他の様々な調査の参考にしたい。

忌憚のないご意見をうけたまわりたい。

猿田課長補佐

本日の国勢調査反省座談会は，今回行われた国勢調査を実施するにあたっての問題点，感想，ご意見等について，自由に発言してもらうためのものである。

今日集まっていただいたのは，工，漁業，都市地区を代表して日立市，農業地区を代表して大子町，工，農業，開発地区を代表して神栖町，農業，学園都市地区を代表して茎崎村，工業団地地区を代表して総和町の各調査員の方々である。

よろしくお願いしたい。

◇調査員打合せ会について

司会（木口係長）

調査員打合せ会の運営方法，時間の長短，内容等についてはどうであったろうか。

神栖町

経験の長い調査員が多く，案外調査内容にくわしく，質問がなかった。初めての人も説明を真剣に聞き理解も良った。

日立市

日立市の場合，調査員の約半数は市の吏員であった。自分の調査区の周囲の調査員は市の吏員であるし，聞いたところ他の調査区もそのような状況であった。いままでは，一般の市民の調査員も多かったのに今回はそうではない。

調査そのものは，おかげでスムーズであったが，一般の盛り上がりは非常に少なかったように思う。今まで約10回の国調経験があるが，その中でも非常に盛り上がりが少なく，対象者に調査に対する関心がなかった。

茎崎村

時間については充分であった。初めての人も真剣に聞いていたが，実際に用紙をみると質問があった。それについては，説明して了解してもらった。

大子町

面積が広いので地区ごとに説明会を開いたが，説明がうまく，良く理解できた。

総和町

調査員は農業調査員中心に選出された。その他は一般から選出され，私は初めて従事した。

説明の内容そのものは理解できたが，調査区の境界については，もっと大きな地図で説明してほしかった。

隣の調査区の人と実際に境界を歩いてみたが，境界をみとおしで区切ってある場合が多く，はっきりしていない。字の境なども現在ではわかりずらい。境界はできるだけ道路で区切ってほしい。

司会

3,000分の1，5,000分の1程度の細かい地図ならよいと思う。

川上主事

部落などの関係で，必ずしも道路で区切るというのも問題がある。

日立市

その面では良く整備されている。境界は道路で区切られており，隣接の調査区と，少しの打合せで，完全にすることができる。

野口課長

開発進行中のところなどでは，新しい地図などもないであろうし，なかなかむずかしい。

神栖町

打合せ会の時に，両隣の調査員との意見の交換をして確かめあっておくことが必要であろう。そうすれば〝目こぼれ〟も防げるはずである。

大子町

調査の区域はほとんど固定しており，調査はやりやすい。

総和町

今までは畑で，ほとんど家のなかったような所もどんどん変っているので，やりずらいわけである。

司会

両隣との意見の交換，調整などは必要だと思う。

◇新様式の調査票について

司会

印刷の色，大きさなどについて，何かありましたらお聞きしたい。

神栖町

若い人は良くやってくれるのだが，年をとった人たちは，エンピツのあとを良く消さなかったり，なかなか説明のとおり実行してくれない。説明にも限界があるので，何か良い方法があればよいのだが。説明様式の改善であるとか各人同じ濃度のエンピツを使えるようにするとか，何らかの改善はないだろうか。

司会

エンピツを全世帯に配付するのも不可能だが，市町村で独自に配付したところもあると聞いている。

今回の調査では，調査票の折れ，汚れなど調査票の取扱いが心配だった。

日立市

前回は個表の扱いがわずらわしかったが，今回はそれがなくやりやすかった。

調査票を配付する際，調査票の「鉛筆書き」，「折らないで」という注意書きの個所に鉛筆で○印を打ってわたしたが，非常にスムーズにいった。

工業都市で若い人が多く，所帯が小さい。2調査区を担当したが，まとまっていてやりやすい。

一般に対するP.Rが悪く，関心が持たれてない。20歳台の若い人は，男女を問わず良くないが，年配の人たちは，慣れているせいか良く記入している。

担当した2調査区の1世帯当たり人員は，それぞれ2.61人，3.29人と少なく，若い人の1人住いが多い。その1人住まいの世帯に留守が多いのは閉口した。

野口課長

総理府統計局でも，「赤ちゃんとアパートを狙え」として，アパートの世帯には気をつかっていた。単身世帯，共かせぎの多い若い世帯などは留守が多く，調査への理解にも問題が多いと心配していた。

P.Rについては，ずいぶんとやったつもりではいるのだが。

日立市

街中を見回しても，今回はポスターも少なく，市報でも小さく3回記事の掲載があったのみである。中間調査であるということや，予算等の都合で，P，Rは今回はやらなかったのでは，と思った。

P.Rが不足だと感じた。単身世帯，特に若い人の中で，「国勢調査とは何ですか。」との質問も受けた。年配の人は，調査に慣れている。

野口課長

農村部にはない，都市部の悩み，ご苦労があると思う。

日立市

夜は10時頃，朝は6時頃に行って，調査票をまとめてきた。

神栖町

P.Rについて，神栖町では文書で1回，自動車で1週間流して歩いたが，効果が薄かった。古くからの町民はともかく，新しく来た，特に若い人に関心がない。調査員が一生懸命やっても，皆が関心を持ってくれなければしようがない。

留守世帯について，ある世帯で，病人が出て家族全員が病院に行ってしまっていた。周囲の人にたずねても要領を得ず，いつ帰るかもわからなかった。

新しく来た人は，周囲の人に聞いてもわからない。留守家族の実態の把握はむずかしい。

◇調査にあたり困った事例

茎崎村

エンピツを使うように説明したが，エンピツがないのでボールペンで記入した例があった。これは別の用紙に書き直しておいたが，10戸程度に1本でもエンピツが配付されたら良いのだが。

日立市

いくら注意しても，ボールペンでの記入例はある。マジックでの記入例もある。（笑）

エンピツの配付ということを痛切に感じる。

日立市には工場が乱立しているが，市役所で事業の種類について統一している。しかし，それを従業員に徹底させるための市役所から各工場への呼びかけが不足だった。

日製多賀工場は，事業の種類上は電気洗濯機製造となっている。しかしそこに勤務している人は扇風機製造と記入している。「違っている。」と言うと，「自分が作っているのは扇風機で，洗濯機は作っていない。」（笑）

市役所に企業体への呼びかけはどうしたかと問い合せたが，不足だったかもしれないとの返事だった。県の方からも，そういう依頼については努力してほしい。

川上主事

ポスターなどは，各企業へ配付したのだが。

日立市

ポスター程度では若い人は見ない。

司会

社内報などを利用することも考えれば良った。

日立市

前回はそれをよくやったのだが，今回はちょっと不足だった。

神栖町

各家庭に調査票と一緒に配付した，国勢調査についてのお願いに掲載されている職業分類例の項目が足りない。前回のような細かい分類を掲載してほしい。

総和町

調査票を配付したところ，読んで記入するのが面倒だという家庭が多かった。仕方がないので一軒ずつ調査票の上から下まで全部説明して配付した。配付には時間がかかったが，まちがいなく記入してあるので収集は楽であった。

税金などの質問や，共かせぎの奥さんの職業の記入もれなども少しあった。共かせぎの人は近所に調査票を依頼しておく場合が多いが，調査票の下の電話欄は，不明個所の問い合せに便利であった。

総和町の場合，他県からの転入者が多く，近所とのつき合いもほとんどない。そういう世帯には朝夜何度も足を運ぶほかなかった。東京勤務の1人暮しの世帯の場合，朝の出勤時間，夜の帰宅時間が不明で全く会えなかった。不在者用の調査票で処理した。

独身の世帯では，早朝訪問すると寝ているし，夜行くと遊びに出かけてしまっていて困った。（笑）

昔から住んでいる人は少なく，ほとんどが最近の転入者である。

（次回に続く）